

市町村における発掘調査の概要
令和2年度（2020年度）

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課

目次

はじめに	3
令和2年度(2020年度)市町村が主体となる発掘調査一覧	4
令和2年度(2020年度)(公財)北海道埋蔵文化財センターによる発掘調査一覧	5
令和2年度(2020年度)大学等による発掘調査一覧	5
市町村における発掘調査成果(令和2年度)	6
石狩管内	
札幌市 H508遺跡	7
江別市 高砂遺跡	8
千歳市 ホロカケネフチ16遺跡	9
恵庭市 ユカンボシE1遺跡	10
恵庭市 ユカンボイE13遺跡	11
渡島管内	
函館市 権現台場遺跡	12
函館市 電電公社合宿舎遺跡	13
函館市 大船H遺跡	14
檜山管内	
上ノ国町 史跡 上之国館跡のうち洲崎館跡	15
上ノ国町 史跡 上之国館跡のうち花沢館跡	16
後志管内	
余市町 登町10遺跡	17
上川管内	
旭川市 永山4遺跡	18
宗谷管内	
枝幸町 目梨泊遺跡	19
礼文町 香深井1遺跡	20
オホーツク管内	
美幌町 栄森2遺跡	21
湧別町 シブノツナイ竪穴住居群	22
胆振管内	
室蘭市 緑ヶ丘遺跡	23
苫小牧市 柏原59・60・61・62・63・64遺跡	24
伊達市 有珠モシリ遺跡	25
伊達市 カムイタプコプ下遺跡	26
厚真町 豊沢13遺跡	27
日高管内	
様似町 冬島遺跡	28
根室管内	
中標津町 標津川9遺跡	29
標津町 ポー川河岸3遺跡	30
羅臼町 タツカリウス南岸遺跡	31

はじめに

令和2年(2020年)度、北海道内では41件の発掘調査が行われました。

これらを調査の実施主体者別にみると、市町村教育委員会が25件で、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが4件、大学等が12件となります。

発掘調査には

- (1)遺跡内に道路や建物等をつくる工事の前に行うもの(開発事業に伴う事前調査)
 - (2)遺跡の範囲や内容を明らかにするもの(詳細分布・学術研究調査)
 - (3)史跡公園を建設するなどの目的で、史跡を調べるもの(史跡整備)
- などがあります。これらの調査によって、住居跡や墓などの遺構や土器・石器などの様々な遺物が発見され、地域の歴史や文化が明らかになっています。

ここでは、市町村の教育委員会が行った発掘調査の成果をすみやかに知っていただくために、調査の内容を簡単に紹介します。調査や遺跡について、より詳しく知りたい方は、各概要の末尾に記した問い合わせ先へお問い合わせください。

令和2年度(2020年度) 市町村が主体となる発掘調査一覧

番号	管内	市町村名	遺跡名	登録番号	調査面積 (㎡)	調査目的	備考
1	石狩	札幌市	H508遺跡	A-01-508	374	詳細分布	
2		江別市	高砂遺跡	A-02-12	308	開発事業	
3		千歳市	ホロカケネフ チ16遺跡	A-03-303	30	開発事業	
4		恵庭市	ユカンボシE1 遺跡	A-04-2	130	開発事業	
5			ユカンボシ E13遺跡	A-04-121	223.4	開発事業	
6	渡島	函館市	権現台場遺 跡	B-01-81	909	開発事業	
7			電電公社合 宿舎遺跡	B-01-295	820	開発事業	
8			大船H遺跡	B-01-323	328	開発事業	
9	檜山	上ノ国町	史跡 上之国 洲崎館跡	C-02-25	60	史跡整備	法第125条
10			史跡 上之国 花沢館跡	C-02-70	260	史跡整備	法第125条
11	後志	余市町	登町10遺跡	D-19-51	4259	開発事業	
12	上川	旭川市	永山4遺跡	F-01-93	5094	開発事業	
13	宗谷	枝幸町	目梨泊遺跡	H-05-42	10	学術研究	
14		礼文町	香深井1遺跡	H-08-9	331	開発事業	
15	オホーツク	美幌町	栄森2遺跡	I-06-137	90	開発事業	
16		湧別町	シブノツナイ 竪穴住居群	I-21-35	17.3	詳細分布	
17	胆振	室蘭市	緑ヶ丘遺跡	J-01-16	141	詳細分布	
18		苫小牧市	柏原59・60・ 61・62・63・64 遺跡	J-02-300~ 305	81	詳細分布	
19		伊達市	有珠モシリ遺 跡	J-04-61	10	学術研究	
20			カムイタプコ プ下遺跡	J-04-89	16	学術研究	
21		厚真町	豊沢13遺跡	J-13-147	1477	開発事業	
22	日高	様似町	冬島遺跡	K-08-11	1.75	詳細分布	
23	根室	中標津町	標津川9遺跡	N-03-56	12	詳細分布	
24		標津町	ポー川河岸3 遺跡	N-04-184	20	詳細分布	
25		羅臼町	タツカリウス南 岸遺跡	N-05-43	7	詳細分布	

調査面積合計 15009.45 ㎡

令和2年度(2020年度) (公財)北海道埋蔵文化財センターによる発掘調査一覧

番号	管内	市町村名	遺跡名	登録番号	調査面積(m ²)	調査理由
1	渡島	長万部町	豊野4遺跡	B-17-33	320	開発事業
2		長万部町	共立2遺跡	B-17-52	4,200	開発事業
3	空知	長沼町	16区F遺跡	E-17-32	333	開発事業
4	根室	根室市	トーサムボロ湖 周辺竪穴群遺跡	N-01-1	1,267	開発事業

調査面積合計 6,120m²

※詳しくは、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターへお問い合わせください。(http://www.domaibun.or.jp/)

令和2年度(2020年度) 大学等による発掘調査一覧

番号	管内	市町村名	遺跡名	登録番号	調査面積(m ²)	調査理由	調査者
1	石狩	札幌市	K39遺跡	A-01-39	52.7	開発事業	北海道大学埋蔵文化財調査センター
2					8	開発事業	
3					194	学術研究	
4					1,136	開発事業	
5					187	開発事業	
6					48	開発事業	
7					4	開発事業	
8			K39遺跡隣接地	-	133	開発事業	
9	オホーツク	北見市	大島2(TK-11)遺跡	I-02-327	159	学術研究	東京大学大学院人文社会系研究科(熊木俊朗)
10		置戸町	置戸山2遺跡	I-13-105	4	学術研究	札幌学院大学人文学部(大塚宜明)
11			置戸山2遺跡	I-13-105	1.5	学術研究	札幌学院大学人文学部(大塚宜明)
12	胆振	豊浦町	礼文華遺跡	J-05-3	10	学術研究	北海道大学大学院文学研究院(小杉康)

調査面積合計 1,937.2m²

※ 詳しくは、各大学等へお問い合わせください。遺跡の位置などは、北の遺跡案内(http://www.dokyoji.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/kitanoisekiannai.htm)をご覧ください。

市町村における発掘調査の概要（令和2年度）

石狩管内

札幌市	H508遺跡
江別市	高砂遺跡
千歳市	ホロカケネフチ16遺跡
恵庭市	ユカンボシE1遺跡 ユカンボシE13遺跡

渡島管内

函館市	権現台場遺跡 電電公社合宿舎遺跡 大船H遺跡
-----	--

桧山管内

上ノ国町	史跡 上之国洲崎館跡 史跡 上之国花沢館跡
------	--

後志管内

余市町	登町10遺跡
-----	------------------------

上川管内

旭川市	永山4遺跡
-----	-----------------------

宗谷管内

枝幸町	目梨泊遺跡
礼文町	香深井1遺跡

オホーツク管内

美幌町	栄森2遺跡
湧別町	シブノツナイ 竪穴住居群

胆振管内

室蘭市	緑ヶ丘遺跡
苫小牧市	柏原59・60・61・62・63・64遺跡
伊達市	有珠モシリ遺跡 カムイタプコプ下遺跡
厚真町	豊沢13遺跡

日高管内

様似町	冬島遺跡
-----	----------------------

根室管内

中標津町	標津川9遺跡
標津町	ポー川河岸3遺跡
羅臼町	タツカリウス南岸遺跡

このホームページについてのお問合せや、
北海道の遺跡をもっと知りたい方は・・・

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課

住所：札幌市中央区北3条西7丁目

電話：011-231-4111 内線35-626

北の遺跡案内

<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/kitanoisekiannai.htm>



さっぽろし えいち508いせき

札幌市 H508遺跡 (A-01-508)

発掘主体：札幌市教育委員会（札幌市埋蔵文化財センター）

調査理由：詳細分布

調査地：札幌市東区丘珠町571番地3

調査期間：令和2年8月24日から9月30日まで

調査面積：374㎡

調査の概要

H508遺跡は、札幌市北部に広がる沖積平野に立地する縄文晩期～続縄文初頭の遺跡で、モエレ沼の南西側に位置しています。現地表面の標高は5 m前後、縄文晩期～続縄文初頭の旧地表面の標高は3 m前後です。

H508遺跡は、札幌市農業体験交流施設「サッポロさとらんど」内に所在しており、平成23年度から遺跡の整備を始め、平成30年5月に「丘珠縄文遺跡」としてオープンしました。



調査状況

これまで、平成25・26年度に確認調査を実施し、平成30年度から毎年発掘調査を実施しています。

令和2年度は、遺跡の詳細を把握することを目的として、令和元年度と同じ地区で発掘調査を実施し、縄文晩期～続縄文初頭の文化層で炉跡等を発見しました。遺物は土器や石器等が出土しました。

なお、発掘調査の成果については、令和3年度末に調査概報を刊行する予定です。

この遺跡についてのお問合せは・・・

札幌市埋蔵文化財センターまで

住所：札幌市中央区南22条西13丁目

電話：011-512-5430

開館時間：8:45～17:15

閉館日：祝日・振替休日・年末年始（ただし、5月3～5日、11月3日は開館）



えべつし たかさごいせき

江別市 高砂遺跡 (A-02-12)

発掘主体：江別市教育委員会

調査理由：住宅

調査地：江別市高砂町29-11

調査期間：令和2年5月1日から6月30日まで

調査面積：308㎡

調査の概要

高砂遺跡はJR高砂駅の北西側に広がる遺跡です。かつてJR野幌駅付近から石狩川にかけて流れていた旧モショッケ（虫除）川の右岸に位置しています。発掘調査は昭和39年からこれまでに20回以上実施していますが、未だに住居跡や土壇などの遺構が発見される市内でも大きな遺跡です。これまでの調査で縄文時代早期～擦文時代の土器・石器などが110万点以上出土しており、住居跡は230軒以上、墓や落とし穴などの土壇は1600基以上発見されています。

今年度は縄文時代中期の住居跡が多く発見されているエリアの縁辺部を調査し、住居跡10軒、土壇28基、落とし穴1基などを発見しました。住居跡からは縄文時代中期の土器が発見されているので、同時期に使われていたかもしれません。落とし穴は北端が調査区外のため一部を検出できませんでしたが、長径約3.6m、幅約0.7m、深さ約1.5mと大型のものでした。過去の調査では29番地周辺は住居跡が少なく、落とし穴が多く見つかる傾向にあります。今回落とし穴を検出したのはこの1基のみです。

遺物は土器・石器など合わせて約5,200点を発見しました。土器は縄文時代中期のものが多く、石斧や敲石などの礫石器が多く出土する傾向にあります。今回、上下を互い違いにして重ねた状態の石槍が出土しました。どちらも黒曜石製で、片方は全体に褐色が入っています。遺構のない場所で発見されており詳しい意図はわかりませんが、偶然重なったものではないと考えられます。



検出した落とし穴



上下互い違いに重なって出土した石槍

この遺跡についてのお問合せは・・・

江別市郷土資料館まで

住所：江別市緑町西1丁目38

電話：011-385-6466

開館時間：9:30～17:00（最終入場16:30）

閉館日：月曜日・祝日の翌日・年末年始



ちとせし ホロカケネフチ16いせき

千歳市 ホロカケネフチ16遺跡 (A-03-303)

発掘主体：千歳市教育委員会
調査理由：開発事業（その他開発、農用地造成）
調査地：千歳市新川823-6、823-8、823-9、2199
調査期間：令和2年5月20日
調査面積：30㎡

調査の概要

ホロカケネフチ16遺跡は、JR北海道千歳駅から北東に14kmほど離れた、標高50～100mの馬追丘陵東側に位置しています。

当遺跡が所在する東千歳地域では、多くの遺跡が見つかっており、当遺跡の周辺にも、ホロカケネフチ11～15遺跡、タツウシナイ1・2遺跡が所在しています。

遺跡全体の面積は約170,000㎡で、試掘調査では、縄文時代の遺構が2基、遺物が283点確認されています。

農地に至る通路部分の造成工事における工事立会中に遺構が見つかったため、遺構部分を中心に発掘調査を行いました。

発掘調査の結果、縄文時代の遺物包含層から遺構と遺物を確認しました。遺構は、土坑1基で、底面付近から縄文時代中期前半の土器片185点、石器3点が出土しました。

土坑の周辺からは同時期の土器片や石器等が少量出土しました。

なお、発掘調査の成果については、令和3年度末に調査概報を刊行する予定です。



発掘調査状況



遺物出土状況

千歳市の遺跡についてもっと知りたい方は・・・

千歳市埋蔵文化財センターまで

住所：千歳市長都42-1

電話：0123-24-4210

ホームページ：<http://www.city.chitose.lg.jp/docs/95-43785-169-915.html>

開館時間：9:00～17:00

閉館日：土・日（第2日曜日は除く）・祝日、年末年始



えにわし ゆかんぼしE1いせき

恵庭市 ユカンボシE1遺跡 (A-04-2)

発掘主体： 恵庭市教育委員会

調査理由： 開発事業（住宅）

調査地： 恵庭市恵南6-67

調査期間： 令和2年9月8日から9月29日まで

調査面積： 130㎡

調査の概要

遺跡は、JR千歳線恵庭駅から南に約1.5kmの距離に位置し、ユカンボシ川の源流部から約650m下流の段丘上に立地します。遺跡の範囲はユカンボシ川の両岸に広がり、推定面積は約89,000㎡を測り、これまでに平成24～26年度の3か年で4回の記録保存を目的とした発掘調査が市教委によって実施されています。平成24年度の1次調査では、縄文時代後期の墓域が確認され、赤漆塗櫛を伴った土坑墓なども確認されています。

ユカンボシE1遺跡の5回目の発掘調査となる令和2年度の調査地は、ユカンボシ川の右岸側の住宅街のなかに位置し、現況河川から約100mの距離にあります。今回の発掘調査では遺構は確認されませんでした。縄文時代中期～後期を主体とする土器や石器などの遺物が約640点出土しました。縄文時代中期の土器片を素材として利用し、三角形に加工した土器片加工品と呼ばれる遺物が2点確認されました。旧石器・続縄文・擦文・アイヌ文化期の各時期に相当する遺構や遺物は確認されませんでした。

報告書は令和3年3月に刊行予定です。



ユカンボシE1遺跡調査状況



ユカンボシE1遺跡出土遺物

恵庭市の遺跡についてもっと知りたい方は・・・

恵庭市郷土資料館まで

住所： 恵庭市南島松157-2

電話： 0123-37-1288

開館時間： 9:00～17:00

閉館日： 月曜日・祝日の翌日・毎月最終金曜日・年末年始



えにわし ゆかんぼしE13いせき

恵庭市 ユカンボシE13遺跡 (A-04-121)

発掘主体： 恵庭市教育委員会
調査理由： 開発事業（住宅）
調査地： 恵庭市和光町4丁目1530
調査期間： 令和2年5月12日から7月27日まで
調査面積： 223㎡

調査の概要

遺跡は、JR千歳線恵庭駅から南に約1.3kmの距離に位置し、ユカンボシ川の源流部から約2km下流の左岸段丘上に立地しています。平成21年度に記録保存を目的とした発掘調査が市教委によって実施され、擦文時代前期と想定される竪穴住居跡1軒、縄文時代の土坑2基などが確認されています。

ユカンボシE13遺跡の2回目の発掘調査となる令和2年度の調査地は、ユカンボシ川の左岸側の住宅街のなかに位置し、現況河川から約40mの距離にあります。今回の発掘調査で確認された遺構は、竪穴建物跡1軒、土坑9基、焼土8か所などがあり、出土した遺物は約8,400点で、その内訳は縄文土器が約4,300点、石器・剥片類が約3,700点、礫類が約70点を数えます。出土遺物の半数を縄文土器が占め、縄文時代中期～後期の土器を主体とし、早期の土器も出土しています。確認された竪穴建物跡1軒は、出土遺物などから縄文時代中期後半から後期初頭のものと考えられます。確認された遺構は縄文時代のものが多くを占めますが、焼土のうち2か所は検出層位などからアイヌ文化期に属するものと考えられます。なお、旧石器・続縄文・擦文・アイヌ文化期の各時期に相当する遺構や遺物は確認されませんでした。

報告書は令和3年3月に刊行予定です。



ユカンボシE13遺跡調査状況



ユカンボシE13遺跡出土遺物

恵庭市の遺跡についてもっと知りたい方は・・・

恵庭市郷土資料館まで

住所： 恵庭市南島松157-2
電話： 0123-37-1288
開館時間： 9:00～17:00
閉館日： 月曜日・祝日の翌日・毎月最終金曜日・年末年始



はこだてし ごんげんだいばいせき

函館市 権現台場遺跡 (B-01-81)

発掘主体： 函館市教育委員会

調査地： 函館市神山3丁目20ほか

調査実施： 一般財団法人 道南歴史文化振興財団

調査期間： 令和2年6月1日から8月25日まで

調査理由： 開発事業（道路）

調査面積： 909㎡

調査の概要

遺跡は函館市街東部の日吉町段丘と呼ばれる海岸段丘上、亀田川の左岸、台地のほぼ先端部に位置し、標高は50m前後の緩やかな傾斜地です。東側へ直線距離で約600m、鮫川の対岸には同時期の集落跡である陣川町遺跡が所在するなど、付近の段丘縁辺部には比較的多くの遺跡が知られています。

これまでに遺跡は昭和52・54・55年、及び平成元年に宅地造成に伴い調査が行われ、平成12年には下水道敷設、同15年にも市道新設工事に伴い発掘調査が行われています。調査は過去の調査範囲を挟み30m程離れた2地点（A・B区）で行われました。

遺構は竪穴建物跡22軒、土坑35基、柱穴状土坑13基、落とし穴8基、焼土12か所、屋外炉1基、埋設土器1基を確認しています。縄文時代前期の埋設土器、後期の屋外炉以外の時期を判断できる遺構は全て中期に属するものです。

遺物は土器・石器が約34,000点出土しました。土器は見晴町式が多く、次いでサイベ沢V・VI・VII式や榎林式、大安在B式が出土しています。この他に道内最小級の土偶も出土しています。

竪穴建物跡は重複が多くみられ、攪乱の影響や調査区外へと続くものもあり、全形を窺えるものは少ないです。炉の多くは地床炉で、周溝を伴うものが多いという特徴があります。焼失家屋と考えられるものも2軒確認されています。これまでの調査における竪穴建物跡の配置からは縄文時代中期前半から後半にかけての集落の変遷の様子がわかってきました。土坑は上面に大礫が置かれたものや、断面形状がフラスコ状のものなども確認されています。フラスコ状土坑は貯蔵穴と考えられるもののほかに、坑底から全て人為堆積により埋められているもの、極めて小型のものなどが確認され、墓の可能性が考えられるものもみられました。

報告書は令和2年度に刊行の予定です。



遺跡位置図



調査風景

この遺跡についてのお問合せや、函館市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

★権現台場遺跡について

函館市教育委員会生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当

住所：函館市東雲町4番13号

電話：0138-21-3472

ホームページ：<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/>

★函館市内の遺跡について

函館市縄文文化交流センター

住所：函館市白尻町551-1 電話：0138-25-2030

ホームページ：<http://www.hjcc.jp/>

開館時間：（4月～10月）9:00～17:00、（11月～3月）9:00～16:30

閉館日：月曜日（祝翌日）・毎月最終金曜日、年末年始など



はこだてし でんでんこうしゃがっしゅくしゃいせき

函館市 電電公社合宿舎遺跡 (B-01-295)

発掘主体： 函館市教育委員会

調査期間： 令和2年5月8日から9月4日まで

調査理由： 開発事業（道路工事）

調査面積： 820㎡（Ⅲ層・Ⅴ層）

調査地： 函館市臼尻町342-1, 353

調査の概要

遺跡は昭和51年に南茅部電報電話局合宿舎建設に伴い発見されました。函館市南茅部地域では平成26年度より臼尻漁港臨港道路建設に伴う発掘調査を行っており、本遺跡は平成27年度からこれまでに4回、計4,690㎡を調査しています。

遺跡は臼尻地区の弁天岬よりやや西側に離れた標高40m程の海岸段丘上にあり、段丘の縁辺からは150m程山側に位置しています。周辺は縄文遺跡の密集地で、臼尻A遺跡、臼尻B遺跡、臼尻小学校遺跡などが同じ段丘上に位置しています。縄文時代前期以降の遺物包含層（Ⅲ層）と、駒ヶ岳火山灰〔Ko-f・g〕（Ⅳ層）の下にある縄文時代早期の遺物包含層（Ⅴ層）を発掘調査しました。

Ⅲ層の調査では竪穴建物跡1軒、土坑14基、柱穴状土坑33基、焼土2ヵ所を確認しました。竪穴建物跡は、約3.2m×3.8mの楕円形で、ほぼ中央に掘り込みをもつ炉と東壁際の床面にH字状に埋め込まれた礫が見られました。床面や炉内からは縄文だけの土器や折り返し口縁の土器（縄文後期前葉）が出土しています。土坑のうち1基は、断面形がフラスコ状のもので、掘り込み面からの深さ約2.2m、直径約2.3mの坑底中央部にピットが1基確認されました。また周囲にも柱穴状のピットを確認しており上屋があった可能性もあります。この他、石斧が埋納された土坑では、浅い掘り込みに2本の石斧が並んだ状態で出土しました。アオトラ製で、最大長約32cmと約17cmを測ります。

Ⅴ層の調査では竪穴状遺構1基、土坑101基、柱穴状土坑37基、焼土1ヵ所を確認しました。土坑は直径1m前後の円形・楕円形で、確認面からの深さは0.3m前後のものが多く見られました。ほとんどが自然堆積で、遺物を伴うものはごく僅かでした。

遺物はⅢ層約1,900点、Ⅴ層約900点が出土しました。Ⅲ層の土器は後期前葉が主体で中期も少量見られました。Ⅴ層では早期後葉の中茶路式が主体で、貝殻文系や東釧路Ⅲ・Ⅳ式が僅かに確認されています。石器では、石鏃やつまみ付ナイフ、擦石、石錘などが出土しました。

報告書は令和2年度に刊行の予定です。

この遺跡についてのお問合せや、函館市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

★電電公社合宿舎遺跡について

函館市教育委員会生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当

住所：函館市東雲町4番13号

電話：0138-21-3472

ホームページ：<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/>

★函館市内の遺跡について

函館市縄文文化交流センター

住所：函館市臼尻町551-1 電話：0138-25-2030

ホームページ：<http://www.hjcc.jp/>

開館時間：（4月～10月）9:00～17:00,（11月～3月）9:00～16:30

閉館日：月曜日（祝翌日）・毎月最終金曜日・年末年始など



遺跡全景



Ⅴ層調査風景



はこだてし おおふねHいせき

函館市 大船H遺跡 (B-01-323)

発掘主体： 函館市教育委員会

調査期間： 令和2年9月14日から10月28日まで

調査理由： 開発事業（道路工事）

調査面積： 328㎡（Ⅲ層）, 280㎡（Ⅴ層）

調査地： 函館市大船町599-1, 600-2, 600-9

調査の概要

大船H遺跡は大船川支流のテッペイ川左岸、標高約50～60mの海岸段丘上に立地しています。周辺には史跡大船遺跡や大船I・G・E遺跡が同じ段丘上に位置しています。本遺跡は国道278号函館市尾札部道路建設工事に伴い平成30年度に3,950㎡を調査しています。今回の調査区は過年度調査区の南端、テッペイ川に面した台地縁辺部分の緩斜面に位置しています。

縄文時代前期以降の遺物包含層（Ⅲ層）と、駒ヶ岳火山灰〔Ko-f・g〕（Ⅳ層）の下にある縄文時代早期の遺物包含層（Ⅴ層）を発掘調査しました。

Ⅲ層で確認した遺構は、竪穴建物跡5軒、竪穴状遺構3基、土坑52基、柱穴状土坑7基、焼土5か所、近代遺構1基です。竪穴建物跡PD-2とその周辺では、直径10mほどの範囲に過去の調査分も含め19基のフラスコ状土坑が集中しています。竪穴建物跡と切り合う新旧の土坑がありますが、坑底出土の土器片や分布状況から縄文中期の構築と考えられます。今回の調査区中央部に位置する竪穴建物跡PD-6は縄文時代前期の構築で、長軸約7m、短軸約4mの隅丸長方形を呈し、中期の2軒（PD-5・8）が重複しています。竪穴建物跡PD-9は床面の長軸長が約1.7mと小型ですが、地床炉を備え柱穴は壁際に確認されました。調査区東側では石皿や前期の土器が覆土から出土しているものもあり、これら遺構の多くは縄文時代前期・中期に属するものと考えられます。

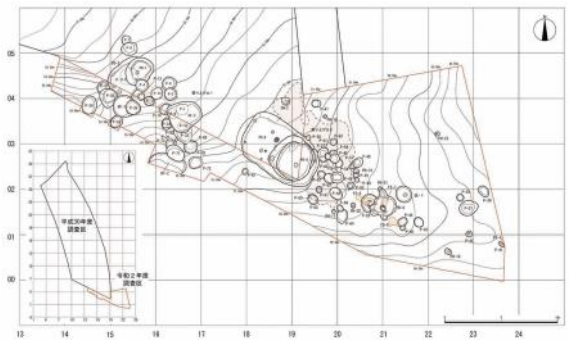
Ⅲ層の遺物は、縄文時代前期（円筒下層c式）・中期（サイベ沢V・VI式）・晩期・続縄文時代の土器や石鏃、スクレイパー、石斧、敲石、擦石、石皿などの石器類を合わせ約2,000点が出土しました。特に擦石類が多く見られ、扁平打製石器と北海道式石冠が合わせて100個以上出土しています。

Ⅴ層で確認した遺構は、土坑2基、柱穴状土坑1基です。遺物は剥片や礫など数点が出土しました。縄文時代早期の遺跡の中心は今回の調査区から北西側へ離れた標高65m前後の緩斜面にあるようです。

報告書は令和3年度に刊行の予定です。



遺跡全景



Ⅲ層遺構配置図

この遺跡についてのお問合せや、函館市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

★大船H遺跡について

函館市教育委員会生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当

住所：函館市東雲町4番13号

電話：0138-21-3472

ホームページ：<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/>

★函館市内の遺跡について

函館市縄文文化交流センター

住所：函館市白尻町551-1 電話：0138-25-2030

ホームページ：<http://www.hjcc.jp/>

開館時間：（4月～10月）9:00～17:00,（11月～3月）9:00～16:30

閉館日：月曜日（祝翌日）・毎月最終金曜日、年末年始など



かみのくにちょう しせき かみのくにたてあとのうち すぎきたてあと

上ノ国町 史跡 上之国館跡のうち洲崎館跡

(G-02-25)

発掘主体：上ノ国町教育委員会

調査期間：令和2年4月12日から11月24日まで

調査理由：史跡整備

調査面積：60㎡

調査地：檜山郡上ノ国町字北村137-1、124-2番地

調査の概要

洲崎館跡は、天の川の河口から約800m北東方向に位置し、史跡内に建てられている砂館神社の南～南東側の標高1～7mの平坦地と南西側、東側、北側の海成段丘面を覆う標高11～15m砂丘上に所在しています。

長禄元（1457）年に起きたアイヌと和人との戦い（コシヤマインの戦い）においてアイヌの侵攻を抑えた武田信広が築城したといわれています。また、鎌倉時代に相当する青磁や播鉢が見つかるため、築城以前から集落及び交易を行う港湾施設が存在していたと考えられています。

令和2年度は、史跡の東部にあたる砂丘上に発掘調査区を設定しました。また、この地点は昭和54年に耕作土中から人頭骨が播鉢をかぶせた状態で見つかった場所であり、墓地の可能性を予察して調査を行いました。成果としては、中世に相当する地層は見つかりませんでした。1640年に駒ヶ岳から噴出した火山灰(Ko-d)ブロックを含む近世以降の土壌が検出されました。

遺物は、攪乱及び近世～近代の層位から肥前系陶磁器などの陶磁器が出土しました。

次年度も令和元年度に見つかった空堀・土塁の付近や洲崎館の推定箇所である南西部の砂丘上などに調査区を設定し、遺構の規模・構造を把握するために調査を継続する予定です。

報告書の刊行は令和2年度末に予定しています。



洲崎館跡遠景



土壌検出状況

この遺跡についてのお問合せは・・・

上ノ国町教育委員会まで

住 所：檜山郡上ノ国町字大留100番地
電 話：0139-55-2230



かみのくにちょう しせき かみのくにたてあとのうち はなざわたてあと

上ノ国町 史跡 上之国館跡のうち花沢館跡

(G-02-70)

発掘主体： 上ノ国町教育委員会

調査理由： 史跡整備

調査地： 檜山郡上ノ国町字勝山172-1番地他

調査期間： 令和2年4月12日から11月24日まで

調査面積： 260㎡

調査の概要

花沢館跡は、天の川河口左岸にある標高約20～60mの丘陵上に位置し、室町時代（1430年頃）に蠣崎季繁によって築かれた山城といわれています。

令和2年度は過年度調査の成果を踏まえ、頂上部の主郭や主郭北側の腰曲輪群などの平坦面に発掘調査区を設定しました。主郭では腰曲輪と切岸、溝、焼土、土壙、杭穴、礫集中が検出されました。腰曲輪群では、腰曲輪や切岸の他、旧道跡や土壙の穴が検出されました。

遺物は、15世紀中頃に相当する青磁碗、白磁皿、珠洲の播鉢、古瀬戸の天目茶碗、茶入といった陶磁器、鉄鍋、銅銭、釘、毛抜き、足金物、砥石、漆製品、骨角器など多種多様な遺物が597点出土しました。

花沢館跡は、これまで有事の際に立て籠もる詰城と位置づけられていましたが、主郭における懸仏や茶道具の出土から、信仰や喫茶に関わる活動も行っていたことが考えられます。

報告書の刊行は令和2年度末を予定しています。



花沢館跡遠景



懸仏出土状況

この遺跡についてのお問合せは・・・

上ノ国町教育委員会まで

住 所： 檜山郡上ノ国町字大留100番地

電 話： 0139-55-2230



よいちちょう のぼりちょう10いせき

余市町 登町10遺跡 (D-19-51)

発掘主体：余市町教育委員会

調査期間：令和2年5月11日から10月31日まで

調査理由：開発事業(道路)

調査面積：4,259㎡

調査地：余市町登町1248番3ほか

調査の概要

遺跡の調査は、平成30年12月に開通した後志自動車道余市ICから仁木方面へ延伸する一般国道5号俱知安余市道路（共和-余市）の建設に伴うものです。調査した登町10遺跡は、余市町の市街地から4kmほど離れた余市農道離着陸場のある丘陵の東側斜面に位置しています（写真1）。調査前は畑として利用されていた土地で、調査地点の現在の標高は約20～27mです。調査区の中央は沢地形を呈しており、沢の北側は後世の攪乱などによって遺構や遺物はほとんど残存していませんでした。一方、沢の南側の緩斜面部では遺構や遺物がよく残っており、調査区西側の急斜面部の一部にも残っていました。

主要な遺構として、縄文住居35軒の他、剥片集中、焼土遺構、土坑、小土坑などが多数検出されています。住居の時期は早期や後期のものと思われます。早期の住居は調査区の南側や西側斜面、後期の住居は調査区東側から沢地周辺に集中する傾向が伺えます。住居の大きさは、概ね長軸4～5m前後で（写真2）、なかには6.5mとやや大型のものもみつかりました。主柱穴ははっきりとせず、炉は住居内中央ではなく壁際につくられていました。早期の住居では掘り込みの外側に柱穴を持つものが多くみられます。

遺物は土器、石器、土製品など、約18,000点が確認されています。土器は、早期ではコッタロ式や中茶路式、後期では手稲式やホッケマ式のものも多くみつかっています。石器は剥片石器よりも礫石器が多い傾向がみられます。その他、オロシガネ状土製品なども出土しています。

登町10遺跡の報告書は、令和3年度に刊行を予定しています。



写真1：調査区遠景



写真2：33号縄文住居

この遺跡についてのお問合せは・・・

余市水産博物館まで

住所：余市町入舟町21

電話：0135-22-6187

開館時間：9:00～16:30

閉館日：月曜日、祝日の翌日、12月上旬～翌年4月中旬まで冬期休館

17 休館中は平日であれば、お問い合わせに対応いたします。



あさひかわし ながやま4いせき

旭川市 永山4遺跡 (F-01-93)

発掘主体：旭川市教育委員会

調査期間：令和2年6月1日から10月30日まで

調査理由：開発事業（商業建設施設）

調査面積：5,094㎡

調査地：旭川市永山5条19丁目303番1

調査の概要

永山4遺跡は北海道上川合同庁舎から旧上川農業試験場跡地、道道東鷹栖-東神楽線、旧旭川市永山保育所跡地、北海道立旭川農業高等学校跡地にかけて広く確認されている遺跡です。遺跡は、昭和59年(1984年)、道道東鷹栖-東神楽線の拡張工事によって最初の行政調査が行われました。その後、平成8年(1995年)～平成10年(1998年)、北海道上川合同庁舎建設、平成17年(2005年)、民間駐車場造成に伴い調査が行われ、今回は7回目の調査になります。

遺跡は石狩川と牛朱別川に挟まれた沖積地に位置し、調査区では最大幅30mを超える旧河川が検出されました。これは1997年度の調査で確認された河川に接続するものと考えられます。

遺構はピット・小ピットが151基、焼土2基、集石1基、チップ集中12カ所などが検出されました。石鏃や剥片を大量に副葬した墓が確認されました。

遺物の内訳は、調査終了時点で、土器類：15,571点、石器類531,769点、合計547,340点でチップ集中出土の剥片や碎片が全体の7割以上を占めます。定型的な石器はそれほど多くありません。石材は黒耀石が最も多く、珪岩、片岩がそれに次ぎます。土器は縄文晩期土器が主体を占めますが、前期～中期、続縄文土器、擦文式土器、土師器もわずかに認められます。

当遺跡は上川盆地では縄文時代晩期を主体とする遺跡と認識されていましたが、今回の調査で上川盆地内では例の少ない続縄文文化に属すると考えられる土器が出土しました。この土器は文様や器形もはっきりしているので、上川盆地における続縄文文化がどの地域の影響のもとにあったのかなど、当時の様相を知ることができるかも知れません。

なお、本調査にかかる報告書は令和3年度内の刊行を予定しています。



永山4遺跡 全景



P156 全景

この遺跡についてのお問合せは・・・

旭川市教育委員会文化振興課まで

住所：旭川市6条通8丁目セントラル旭川ビル7F

電話：0166-25-7558



えさしちょう めなしどまりいせき

枝幸町 目梨泊遺跡 (H-05-42)

発掘主体：枝幸町教育委員会

調査期間：令和2年9月18日から9月24日まで

調査理由：学術研究

調査面積：10㎡

調査地：枝幸郡枝幸町目梨泊43番地2

調査の概要

目梨泊遺跡は枝幸町の北部、神威岬を望むオホーツク海に面した段丘上に立地します。昭和62年から平成6年にかけて、枝幸町教育委員会による発掘調査が行われ、20万点を超える大量の遺物が出土しました。この中には本州からもたらされた「蕨手刀」や大陸製の「青銅製帯飾」など数々の交易品が含まれており、オホーツク文化の交流・交易の様相を伝える資料として、平成12年に319点が国重要文化財に指定されています。

平成11年に枝幸町の博物館施設「オホーツクミュージアムえさし」が開館して以後は、筑波大学、さらに札幌大学と連携して町の調査研究事業として学術調査を行っています。

また、平成30年度からは、「ふるさと」の歴史を地域住民とともに学ぶ取り組みとして、地元の北海道枝幸高等学校の生徒が調査に参加しました。

本年度は、昨年度の調査で明らかになった「第42号土壙墓」の周辺を精査しました。この墓からは、刀装具を金で覆い、緻密な宝相華文を彫刻した豪華な直刀が見つかっており、埋葬された時期や被葬者の社会的な背景の解明が課題になっています。

今年度の調査では墓の周辺をL字形に囲むように発掘区を拡張しました。調査の結果、墓の周囲に複数の柱穴状のピットが確認されました。昨年、一昨年の調査結果とあわせてこの墓の全体像を明らかにできたものと思います。

この墓から見つかった「金銅装直刀」は、国内でもあまり類例のない資料であり、その生産地や流入経路などはまだ分かっていません。今後さらに科学的な分析を進め、オホーツク文化の人びとの交流の実態を明らかにしていきたいと考えています。



写真1：金銅装直刀の鐔（宝相華文を彫り込む）



写真2：発掘調査の状況

この遺跡についてのお問合せは・・・

オホーツクミュージアムえさしまで

住所：枝幸郡枝幸町三笠町1614-1

開館時間：9:00～17:00（金銅装直刀は令和2年夏より公開しています。）

電話／メール：0163-62-1231／museum@esashi.jp

閉館1日：毎週月曜日、月末の火曜日



れぶんちょう かふかい1いせき

礼文町 香深井1遺跡 (H-08-9)

発掘主体：礼文町教育委員会

調査地：礼文町大字香深村字カフカイ11-9, 10, 47, 51, 53, 66

調査理由：開発事業（道路）

調査期間：令和2年7月1日から10月31日まで

調査面積：331㎡

調査の概要

香深井1遺跡は、礼文島の玄関口香深フェリーターミナルから北へ約5kmの香深井地区にあります。遺跡は、香深井湾のほぼ中央、香深井川河口の北側に形成された標高2～4mほどの海岸砂丘上に立地し、西側に沖積地、東側は海の向こうに利尻島を臨みます。

この遺跡は、昭和28年にオホーツク土器を伴う遺跡であることが公表され、昭和43年から47年までの北海道大学による調査で、オホーツク文化の住居や豊富な遺物を含む魚骨層などが見つかりました。その成果は、香深井1遺跡を道北地方の代表的なオホーツク文化の遺跡として知らしめています。

今年度の調査区は、砂丘の頂部から海岸へ至る斜面にあたり、最深部では浜辺に作られた集石炉が見つかりました。そのほかに、砂丘頂部から砂浜へかけて魚骨や土器片を含む廃棄層が確認され、当時の人々の活動や場所の使い方を推定できます。

遺物としては、紀元7～8世紀ごろにあたりとされるオホーツク文化期後期の土器、頁岩や島内に産出しない黒曜石の石器、骨角器が見つかりました。また、鳥、魚など食料となった動物の骨や貝殻といった動物遺存体も大量に出土しています。

特に、イヌやブタといった家畜、アシカやクジラといった海獣類の骨は、大陸とつながりを持ち、海を生活の場としていたオホーツク文化らしいものといえます。

礼文島は、オホーツク文化が北海道へ波及する入り口となった宗谷海峡南岸でも、初期から終末期までの遺跡が同所的に確認でき、常に注目されている場所です。本年度の香深井1遺跡での成果は、過去の調査で見つかった居住域との関係や土地の使い方など、オホーツク文化の生活を復元する上で示唆に富むものです。

なお、来年度以降も隣接地で調査を行う計画で、発掘調査の成果については、開発予定地内の調査完了後に報告書を刊行する予定です。



図1：調査区遠景（南より）



図2：オホーツク土器

この遺跡についてのお問合せや、礼文町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

★香深井1遺跡について

礼文町教育委員会まで

電話：0163-86-2119

★礼文町内の遺跡について

礼文町郷土資料館まで

住所：礼文郡礼文町大字香深村字ワウシ958-4

ホームページ：<http://rebun-museum.org> 開館時間：8:30～17:00（5月～10月まで）

閉館日：月曜日・祝日の翌日、ただし6月～9月は無休、11月～翌4月は冬季休館



びほろちょう さかえもり2いせき

美幌町 栄森2遺跡 (I-06-137)

発掘主体：美幌町教育委員会
調査理由：開発事業（農業関連、暗渠排水）
調査地：美幌町字栄森14-1、15、16-1・2
調査期間：令和2年11月5日から11月27日まで
調査面積：90㎡

調査の概要

栄森2遺跡は美幌町市街地より南東に約9km、栄森川右岸の河岸段丘上に立地しています。遺跡の標高は70m程となっています。栄森2遺跡の調査は、水利施設等保全高度化事業中央美和地区の暗渠排水工事に伴い、遺跡の範囲を確認する目的で試掘調査を実施しました。

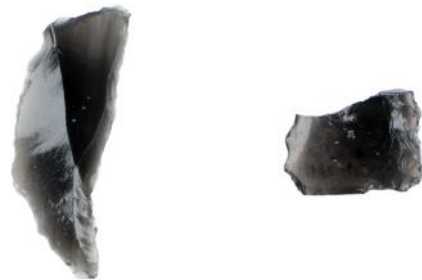
試掘調査の結果、遺構は確認されませんでした。試掘ピット90か所から30点の遺物が出土しました。遺物は調査区北東側のいずれも耕作土の中からもばらに出土しています。また、試掘調査の結果から過去の耕作や削平作業によって既に破壊された状況であることが明らかになりました。

遺跡の時期は、調査区から北筒式土器の破片が出土していることから縄文時代中期末葉～後期初頭と考えられます。

報告書は令和3年3月に刊行の予定です。



調査風景



出土遺物

この遺跡についてのお問合せや、美幌町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

美幌博物館まで

住所：美幌町字美禽253-4

電話：0152-72-2160

開館時間：9:30～17:00

閉館日：月曜日（月曜が祝日・振替休日の場合、直後の平日）、国民の祝日の翌日
年末年始（12月30日～1月6日）



湧別町 シブノツナイ堅穴住居群 (I-21-35)

発掘主体：湧別町教育委員会

調査期間：令和2年7月16日から8月12日まで

調査理由：詳細分布

調査面積：17.3㎡

調査地：湧別町川西506-2、718

調査の概要

シブノツナイ堅穴住居群は湧別市街地から西に4 kmほど、シブノツナイ湖と湧別川の支流センサイ川に挟まれた標高4～5 mの台地の北端に位置しています。

この遺跡の特徴は、堅穴住居跡と考えられる窪みが地表面で確認できることと、その窪みが530基も密集して確認できることです(写真1)。昭和42年3月17日には北海道指定史跡「シブノツナイ堅穴住居跡」として指定されています。堅穴住居跡の平面形状を見ると円形、柄鏡形、多角形、方形と様々なものが確認でき、道内各地の調査成果からそれぞれ縄文、続縄文、オホーツク、擦文文化の頃のものだと判断できます。そのため、この堅穴群は長期間にわたり形成された遺跡だと推測できますが、530基の堅穴住居跡の大半が方形であることから、この遺跡は主に擦文文化期(約1,000年前)のものだと考えられます。

平成30年度からは湧別町が主体となって発掘調査を行っており、今年は一辺10m前後もある大型堅穴住居跡を2基選んで実施しました。調査の目的は堅穴住居跡の年代や内容を把握することで、カマドの確認と年代を特定できる資料・試料の収集を目標としました。カマドは擦文文化期の堅穴住居跡に見られる特徴的な設備というだけでなく煮炊きの場であったため、年代を特定するために必要な炭化物や当時の食生活などを復元するために必要な土壌なども採取できる可能性が高いからです。そのカマドは住居の南東側の壁に設けられることが多いため、発掘は堅穴住居跡の中央から東と南方向の壁に向かって0.5m幅で行いました(写真2)。調査の結果、2基の堅穴住居跡ともカマドの確認と炭化物等の採取、擦文土器の収集ができました。土器は文様の種類から擦文文化後晩期(約1,000年前)のものと考えられます。

今年の調査成果として、発掘調査概要報告書を令和3年3月末に刊行予定です。発掘調査は来年度も同程度の規模で実施する予定です。



写真1：シブノツナイ堅穴住居群 全景



写真2：堅穴住居跡の発掘風景

この遺跡についてのお問合せや、湧別町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

湧別町教育委員会ふるさと館JRY・郷土館まで

住所：湧別町北兵村一区588番地
電話：01586-2-3000

開館時間：9:00～16:30(入館は16:00まで)
閉館日：月曜日(祝日は開館)・年末年始



むろらんし みどりがおかいせき

室蘭市 緑ヶ丘遺跡 (J-01-16)

発掘主体： 室蘭市教育委員会

調査期間： 令和2年6月22日から6月30日まで

調査理由： 詳細分布

調査面積： 141㎡

調査地： 室蘭市宮の森町3丁目1-1

調査の概要

緑ヶ丘遺跡は、JR東室蘭駅から北東に0.8km、標高12m付近のなだらかな台地上に立地しています。現地は、学校敷地としてこれまで利用されており、周辺を含め市街地となっています。

この遺跡については、発掘調査などがこれまで行われておらず、縄文期のものとして把握されてきた一方で、その範囲や時期等の詳細は明らかになっていませんでした。このため、室蘭市教育委員会では、このたび包蔵地の現状等を把握するための発掘調査を行ったところです。調査では、敷地全体にテストピットを51箇所設定し、重機及び人力により掘削を行い、堆積状況を把握するとともに、遺構及び遺物の有無を確認しました。

敷地全体で、近代以降に台地の高い場所を削って、沢状の落ち込みを埋めるといった大規模な地形改変が行われていることが確認されました。このため、遺物包含層を含めて既に自然層位が失われている範囲がある一方で、良好な堆積状態が確認された調査区では、黒色土の遺物包含層が検出され、そこから土器片や剥片石器、石皿などが出土しました。また、性格が不明なピットも複数基検出されています。緑ヶ丘遺跡は、貝塚として掲載されていますが、今回その所在は確認できませんでした。

検出された遺物の数量は、テストピットによる試掘調査のため多くはないですが、貝殻条痕文が施された土器片が確認されており、縄文早期の所産と考えられます。また、石皿が検出されていることから、立地の状況と合わせても、集落のような定住的な性格が強い遺跡であるものと推測されます。

これまでこの遺跡については、縄文期の遺物が出土したというごく限られた情報しかありませんでしたが、このたびの調査において、遺跡の現状を把握したほか、活動時期や遺跡の性格についても手がかりを得ることができました。



遺跡近景



出土遺物

この遺跡についてのお問合せや、室蘭市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

★緑ヶ丘遺跡について

室蘭市教育委員会まで

電話：0143-22-5094

メール：syougaigakusyuu@city.muroran.lg.jp

★室蘭市内の遺跡について

室蘭市民俗資料館まで

住所：室蘭市陣屋町2丁目4番25号

電話：0143-59-4922、メール：syougaigakusyuu@city.muroran.lg.jp

開館時間：10:00～16:00

閉館日：月曜日・祝日の翌日・年末年始・1月20日～3月19日



とまこまいし

かしわばら59・60・61・62・63・64いせき

苫小牧市 柏原59・60・61・62・63・64遺跡

(J-02-300・301・302・303・304・305)

発掘主体：苫小牧市埋蔵文化財調査センター

調査理由：詳細分布

調査地：苫小牧市字柏原22-22、24-1

調査期間：令和2年9月1日から10月13日まで

調査面積：81㎡（1.5×6mの試掘溝9本）

調査の概要

苫東開発区域内の柏原地区の調査で、新たに柏原59・60・61・62・63・64遺跡を発見しました。遺構として柏原60遺跡で落とし穴1基、柏原61遺跡で落とし穴2基と土坑1基、柏原62遺跡で落とし穴状遺構が2基、柏原64遺跡で落とし穴1基を確認しました。

また、遺物は柏原59遺跡で石器等1点、柏原63遺跡で土器石器等6点が出土しています。いずれも縄文時代のものです。報告書は令和5年度に刊行予定です。



柏原59・60・61・62・63・64遺跡位置図

苫小牧市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

苫小牧市埋蔵文化財調査センターまで

住所：苫小牧市末広町3丁目9番7

電話：0144-35-2550

閉館日：月曜日、年末年始



だてし うすもしりいせき
伊達市 有珠モシリ遺跡 (J-04-61)

発掘主体：伊達市教育委員会

調査期間：令和2年9月1日から9月22日まで

調査理由：学術研究

調査面積：10m²

調査地：伊達市有珠町102番地

調査の概要

有珠モシリ遺跡は、噴火湾東岸の伊達市有珠地区、有珠湾の湾口に位置する約10,000m²の小島に所在しています。縄文時代の終わりから続縄文時代にかけての貝塚と墓からなる遺跡で、装飾豊かな銚やクマが彫刻されたスプーン等の骨角器や、沖縄近海でしか採取されない貝でできた腕輪などが発見されたことで注目を集める遺跡です。本遺跡では、1985年～1989年まで札幌医科大学によって発掘調査が実施されました。今回の調査は、それ以来30年ぶりとなる学術調査（科研費18H00749基盤研究（B）「狩猟採集文化と農耕文化の接触による社会の変容と地域的多様性に関する学際的研究」）の2年目で、東北芸術工科大学との共同で発掘調査を実施しました。

今回の調査は、昨年度検出されていた未調査の墓（「18号墓」）を中心に行いました。18号墓は、有珠山が山体崩壊した時に堆積した巨岩（岩屑なだれ堆積物）の隙間の混貝土層を掘り込んだ直径約1.2mの円形の墓で、中から11個体の頭骨を含む人骨群が出土しました。墓の時期は覆土と底面付近から出土した土器の型式から、現時点では縄文晩期末と考えています。来年度以降の調査で墓坑床面の精査を行い、時期を確定したいと考えています。

人骨の出土状況は、墓坑の北壁に4個体、南壁7個体の頭骨が列状に並び、両者が向かい合った状態でした。それらの頭骨列の間に長軸方向が揃った四肢骨が束ねられるように置かれていました。人骨の出土状況の観察結果から、18号墓は「再葬（複葬）墓」と言えます。

今後はより詳細な分析を行い、縄文晩期から続縄文期のこの地域にみられる葬制の実態等を明らかにしていきたいと考えています。



調査風景



人骨出土状況

この遺跡についてのお問合せや、伊達市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

★有珠モシリ遺跡について

伊達市教育委員会生涯学習課文化財係まで

電話：0142-23-3331

★伊達市内の遺跡について

だて歴史文化ミュージアムまで

住所：伊達市梅本町57-1

電話：0142-25-1056

開館時間：9:00～17:00

閉館日：月曜日（月曜が休日の場合はその翌日、連休の場合は終了日の翌日）



だてし かむいたぶこぶしたいせき
伊達市 カムイタプコブ下遺跡 (J-04-61)

発掘主体：伊達市教育委員会
調査理由：学術研究
調査地：伊達市有珠町99-1
調査機関：令和2年11月12日から11月20日まで
調査面積：16㎡

調査の概要

カムイタプコブ下遺跡は、噴火湾東岸の伊達市有珠地区に所在するアイヌ文化期の遺跡です。昨年度までに引き続き、科研費19H01352基盤研究(B)「巨大噴火・津波の痕跡を軸とした17世紀アイヌ文化と環境に関する学際的研究」の一環として、17世紀を中心とするアイヌ民族の集落跡の調査を行いました。今回の調査では、昨年発見された貝塚SM005の調査を行いました。

この貝塚は、1640年の駒ヶ岳噴火・津波に伴う津波堆積物に覆われていました。このことから、貝塚の形成された時期が1640年以前であることが分かります。今年度の調査では、貝塚に含まれるすべての動物遺存体を取り上げ、研究室に持ちかえって水洗選別を行っています。今後、貝塚にどのような動物遺存体が含まれているのか分析を進め、当時の生活や環境を復元したいと考えています。



カムイタプコブ下遺跡近景



貝塚SM005

この遺跡についてのお問合せや、伊達市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

★カムイタプコブ下遺跡について

伊達市教育委員会生涯学習課文化財係まで
電話：0142-23-3331

★伊達市内の遺跡について

だて歴史文化ミュージアムまで

住所：伊達市梅本町57-1

電話：0142-25-1056

開館時間：9:00～17:00

閉館日：月曜日（月曜が休日の場合はその翌日、連休の場合は終了日の翌日）



あつまちょう とよさわ13いせき

厚真町 豊沢13遺跡 (J-13-147)

発掘主体：厚真町教育委員会

調査期間：令和2年11月16日から12月3日まで

調査理由：開発事業（農業関連）

調査面積：1,477㎡

調査地：勇払郡厚真町字豊沢253-1

調査の概要

厚真町は北海道胆振総合振興局管内の胆振東部に位置し、埋蔵文化財包蔵地として登録されている遺跡数は令和3年1月末日現在で150カ所になります。遺跡は厚真川支流当麻内川右岸の標高約40mの海成段丘上に所在し、厚真市街地からは南南東へ約3.5kmに位置しています。

令和2年の試掘調査によって発見された包蔵地で、当麻内川小規模な支流の水源付近の南西に延びる細い尾根状地形に立地しています。試掘調査によって豊沢13遺跡周辺には豊沢11遺跡・12遺跡・14遺跡の3カ所が新たに確認されており、豊沢13遺跡では、Tピット1基、礫2点が出土していました。

豊沢13遺跡は今回、農地造成区域のほぼ中心部に位置していたことから、現状保存が困難であり、記録保存を目的とした発掘調査となりました。調査は試掘調査で検出した遺構や出土遺物が少なかったことや地形的特徴により、重機を利用した遺構確認調査とし、調査員2名と作業員2名による立ち会いのもと遺構確認面となる漸移層上位までの黒色土を重機で除去し、遺物回収とTピットなどの検出遺構の調査を行いました。

調査の結果は縄文時代後期初頭と思われる竪穴式住居跡1軒、Tピット14基、土坑1基、焼土1カ所、礫集中1カ所を検出しました。竪穴住居跡は長軸3.80m、短軸3.66m、検出面からの深さ0.17mで、中央付近に地床炉1カ所を検出しました。床面からの遺物は黒曜石の使用痕のあるフレイク2点やフレイク・チップ1点や礫8点と少なく、周囲の遺物から縄文時代後期初頭の余市式期のものと思われます。Tピットは平面形が溝状タイプ12基、楕円形タイプ2基を検出し、溝状タイプの平均規模は長軸302cm、短軸84cm、深さ141cmと大型のものが多く、楕円形タイプは長軸157cm、短軸132cm、深さ84cmでいずれも坑底面に2カ所の逆茂木跡を検出しています。礫集中は漸移層中の検出で縄文時代前半期と思われ、完形の構成礫の平均値は長軸8.8cm、短軸6.6cm、重さ336gの円礫で、48点中44点が被熱していました。礫表面の色調や円磨度、石材より周辺の海成段丘から採取されたものと思われます。

今回の発掘の内容から、豊沢13遺跡は縄文時代後期の集落跡であり、そのほかの時期では、狩猟場として利用されていたことが判明いたしました。



竪穴式住居跡



Tピット（坑底に逆茂木跡2カ所）

この遺跡についてのお問合せや厚真町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

厚真町教育委員会 生涯学習課社会教育グループ 軽舞遺跡調査整理事務所（旧軽舞小学校）まで

電話：0145-28-2733

メール：8:45～17:15



さまにちょう ふゆしまいせき

様似町 冬島遺跡 (K-08-11)

発掘主体： 様似町教育委員会

調査期間： 令和2年8月29日

調査理由： 詳細分布

調査面積： 1.75㎡

調査地： 様似郡様似町字冬島39番地ほか

調査の概要

冬島遺跡は、様似町市街地から6 kmほど離れた冬島地区の冬島川とポンサヌシベツ川に挟まれた海岸段丘の台地上に位置しています。

冬島遺跡はこれまでに何度か発掘調査が行われており、昭和56年の地元郷土史愛好団体が実施した発掘調査では、竪穴式住居跡が出土しています。

様似町教育委員会では冬島遺跡の範囲や遺跡の性格を調査するために平成26年度から発掘調査を実施しています。

平成26年度から28年度の調査は、遺跡の年代や性格を把握する目的で行ったもので、魚骨を多く含む層が確認され、コハク玉などの装飾品も出土しました。

平成30年度の調査は、遺跡の範囲を確認する目的だったため、遺跡の東側に等間隔で試掘坑と呼ばれる2 m × 1 mの穴を掘って遺跡の有無を確認しました。

令和元年度の調査では、平成30年度に調査した試掘坑1箇所を南北方向に広げ、南北方向の遺跡の広がりについて確認しました。

今年度の調査では、さらに広範囲の区域を対象として、遺跡がどこまで広がっているかを把握するために、50cm角の試掘坑を7か所掘って確認しました。調査では3か所から土器などの遺物が確認され、そのうち1つはこれまで考えていた冬島遺跡の範囲よりもかなり西側の試掘坑から出土したことから、遺跡の範囲が想定より広いことがわかりました。



調査遠景

この遺跡についてのお問合せは・・・

様似郷土館まで

住所：様似町会所町1番地
電話・Fax：0146-36-3335

開館時間：10:00～16:30
閉館日：月曜・祝日の翌日・年末年始



なかしべつちょう しべつがわ9いせき

中標津町 標津川9遺跡 (N-03-56)

発掘主体：中標津町教育委員会

調査理由：詳細分布

調査地：標津郡中標津町西8条北5丁目2番1

調査期間：令和2年5月16日、30日、6月6日、13日、21日 計5日間

調査面積：12m²

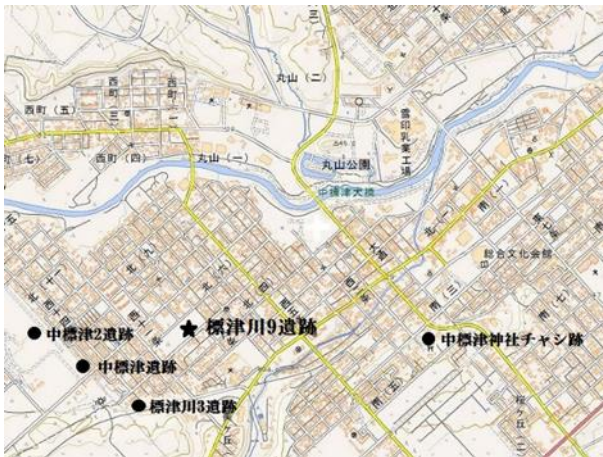
調査の概要

標津川9遺跡は中標津市街地北西部に所在し、標津川によって形成された標高35mの河岸段丘の右岸に立地しています。

本遺跡は、旧所有者から当町が埋蔵文化財の保存と活用を考慮して平成28年12月22日に購入したところであり、将来の土地利用に資するため平成29年度から複数年かけて遺跡の範囲及び性格の確認を目的として調査を行っており、来年度も実施予定です。

試掘調査の結果、12地点のテストピットの内、1地点から擦文土器1点の遺物と、3地点において、遺構と思われる土層が確認されました。

遺跡の時期は、昭和40年代に町民が縄文土器、後北式、擦文土器を表採しており、これまでの調査においても、続縄文土器の前半期(興津式、下田ノ沢式)、後半期(後北式)の土器を発見していることから、縄文時代中期後葉から続縄文時代を経て、擦文時代後半期にかけて利用されていたと考えられます。



標津川9遺跡位置図



調査状況

この遺跡についてのお問合せや中標津町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

中標津町教育委員会生涯学習課学芸係まで

電話：0153-73-3111



しべつちょう ぽーがわかがん3いせき

標津町 ぽー川河岸3遺跡 (N-04-184)

発掘主体： 標津町教育委員会

調査理由： 詳細分布

調査地： 標津郡標津町字伊茶仁1番地21、同1番地22

調査期間： 令和2年8月3日から9月2日まで

調査面積： 20㎡

調査の概要

ぽー川河岸3遺跡は標津市街地から北に4kmほど離れた、ぽー川左岸の自然堤防上に位置し、地表面から窪みで観察できる堅穴6か所が確認されています。ぽー川、伊茶仁川流域に窪みで残る大規模堅穴住居跡群、標津遺跡群の構成遺跡の1つです。標津遺跡群の内容解明と、将来の保存に向けた基礎情報を得るため、地域の教育機関等との連携による詳細分布調査を平成29年度から継続的に行っています。

令和2年の調査では、平成29年度に調査した堅穴、令和元年度に調査した堅穴の2か所を対象に、過去に調査した区域の隣接地を拡張し、発掘調査を行いました。調査の結果、アイヌ文化期の住居跡床面から、礫の集中のほか、ガラス玉8点が出土しました。

出土遺物は、床面から続縄文時代初頭の土器片がみつかりました。

今後他の堅穴でもトレンチ調査を実施し、遺跡の詳細を確認した上で、報告書を刊行する予定です。



令和2年度発掘調査状況



令和2年度出土ガラス玉

この遺跡についてのお問合せは・・・

標津町ぽー川史跡自然公園まで

電話：0153-82-3674

メール：po-gawa@shibetsutown.jp



らうすちょう たっかりうすなんがんいせき

羅臼町 タッカリウス南岸遺跡 (N-05-43)

発掘主体： 羅臼町教育委員会

調査理由： 詳細分布

調査地： 目梨郡羅臼町麻布町108番地1

調査期間： 令和2年7月15日から12月11日まで

調査面積： 7㎡

調査の概要

タッカリウス南岸遺跡は半島東側のほぼ中央にあたる羅臼市街より5km程南西に位置し、タッカリウス川右岸の砂丘上に立地しています。町では麻布遺跡公園として遺跡の保存を図ってきておりますが、遺跡の時代などの詳細な情報がなく十分な活用を果たせておりません。このことから、今後の活用方法を検討するために詳細分布調査を令和2年度より開始しました。

現在の地表面では、竪穴住居と考えられる窪みが9軒確認できます。調査は7m×1mのトレンチを、竪穴住居跡のくぼみが2軒並ぶ箇所に設定し、調査を実施しています。

結果、地表面からの観察では2軒の竪穴住居を想定していましたが、この外側にもう1軒の竪穴住居跡を確認し、計3軒の竪穴住居跡を確認しました。

遺物は土器・石器等251点が出土しています。土器は続縄文文化の宇津内Ⅱ式、下田ノ沢Ⅱ式、そして宇津内Ⅱ式と下田ノ沢Ⅱ式の折衷的な土器があり、オホーツク文化の土器もわずかに出土しています。石器は石鏃や搔器などが出土しています。

今後、令和3年～4年度も同規模の詳細分布調査を継続する予定であり、令和5年度に発掘調査報告書を刊行予定です。



タッカリウス南岸遺跡



2号竪穴住居跡

この遺跡についてのお問合せや羅臼町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

羅臼町郷土資料館まで

住所：目梨郡羅臼町峯浜町307-3

電話：011-512-5430

開館時間：9:00～17:00

閉館日：土日祝日・年末年始（ただし、8月1日～9月中旬は閉館日なし）

令和3年(2021年)3月 発行

市町村における発掘調査の概要 令和2年度(2020年度)

編集・発行

北海道教育庁 生涯学習推進局 文化財・博物館課
〒060-8544 北海道札幌市中央区北3条西7丁目
TEL 011-231-4111 内線35-606